

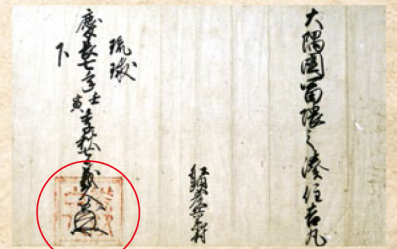
今年(ことし)は戦国武将・島津義弘の没後400年です。霧島市は、義弘の兄・義久と大きなつながりがあります。今回は、義久が築いた富隈城と国分新城について詳しく紹介します。

## 富隈城と決之市

富隈城は現在の隼人町住吉にありました。文禄4(1595)年、義

# 島津義久と霧島市

久が内城(現在の鹿児島市立大龍小学校)から移り住んだ城です。薩摩(や大隅)の中世城郭では、城山といわれる山の麓に屋形を構えるのが一般的ですが、この城には城山がない独特な構造になっています。野面積みの石垣は肥後国・八代の石工によるものとされ、城の南東隅には熊本城主・加藤清正から贈られたとされる大きな石が残っています。かつて



義久が発行した朱印状。左側「義久」の文字の下にある模様が「花押」、重なる四角の印が「朱印」



国分新城(舞鶴城)跡。現在は国分小学校や国分高校があり、堀跡の水路が確認できる

※自然の石をそのまま積み上げる方法。戦国時代に本格的に用いられた。

けでなく中国なども意識していたことがうかがえます。

## 名城、国分新城

は城跡の南側にある道路の下まで海が迫っていました。東・西・北の三面は堀で囲まれていたと考えられ、東側の道路の外側にその痕跡が残っています。北西隅の敷地は国道223号の整備で一部が切り取られています。

城下町の浜之市は昔から海上交通の拠点でした。戦国時代までは現在の港よりも1.3キロ西側の鳩脇というところもあり、義久が現在の場所に整備しました。富隈の船頭・堀切彦兵衛尉に宛てた義久の朱印状が国分に残っています。琉球渡海を許可したもので、日本の文書で使われる花押という署名と、中国などで用いられる朱印が押されており、日本だ

本「一だろう」と言っています。少しお世辞が入っている気がありますが、清水城一帯まで含めるとかなり広大で、水や食料も十分確保できるので、名城と言ってもよいかもしれません。ほかに義久は現在の国分の街並みを整備したり、煙草の生産を奨励したりして、商業や産業の基礎をつくりました。しかし、市内に残る義久の痕跡は徐々に失われつつあります。煙草農家は減少し、城の周辺にあった武家屋敷群も今はわずかに面影を残すのみ。「唐仁町」という地名は、この地で中国と貿易をしていた名残です。皆さんも義久ゆかりの街並みを巡り、その功績を感じてみてはいかがでしょうか。

(文責 坂元)

## 郷土への扉

The gateway to local history

## 霧島と島津義久・「記念物100年」展

義久の朱印状や富隈城跡の発掘品などを展示します。

●期間/場所=10月1日(火)~11月4日(月・振休)/国分郷土館、11月9日(土)~12月8日(日)/隼人歴史民俗資料館  
 問=社会教育課 ☎(64)0708